



健康だより



2013
Vol.43
Oct.



ABC検診結果速報



今年度より、職員健診に導入された胃がんリスク検診(ABC検診)。毎年節目年齢(35, 40, 45, 50, 55, 60, 65歳 ※年度末年齢)での検査となります。H25年度職員健診での結果が出ましたので、速報でお伝えします!

まずはおさらい。ABC検診とは?

ペプシノゲン(PG)検査とヘリコバクター・ピロリ抗体検査により、胃がんのリスクを判定します。血液検査で分かります。

ペプシノゲン(PG)とは
胃粘膜にあるペプシン(消化酵素)のもとになるもので、ペプシノゲン I (PG I)とII (PG II)に分けられます。血液中のPG I 値、およびPG I とII の比から萎縮性胃炎の進行度を判断します。

ヘリコバクター・ピロリとは
人間の胃粘膜を好んで住みついている細菌です。胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃がんの原因菌と考えられています。この検診では、ピロリ菌に感染しているかどうかを調べます。

■結果はこのように分類して判定されます

ABC分類		ピロリ菌抗体価	
		陰性(-)	陽性(+)
PG検査	正常(-)	A群	B群
	異常(+)	D群	C群

A群: 健康的な胃粘膜です

B群: 少し弱った胃粘膜です

C群: 弱った胃粘膜です

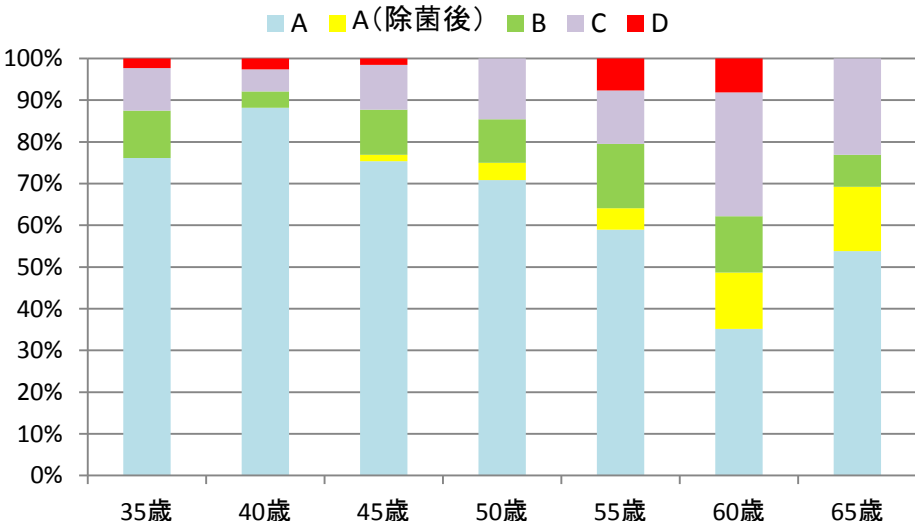
D群: かなり弱った胃粘膜です



結果

計366名の方がABC検診を受診しました。結果の年齢別内訳を下記の図に示します。若干の差異はありますが、年齢が上がるに従って、A判定が減少し、B,C,D判定が増加します。まだまだ一般的な検査ではありませんので、全国平均と比較はできませんが、群馬県のある市のデータと比較しても、その割合に大きな差は認められませんでした。

年齢別判定結果(%)



お願い

ABC検診でB,C,D判定となった方は、必ず医療機関で内視鏡検査をお受けください。その際には、同封されていた紹介状をご持参ください。

すでに10名近くの方の紹介状の返信をいただいております。多くの方が除菌治療を開始されています。

